

第42回

「新・日本の農村」  
写真コンテスト



最優秀賞

「いち・に・さんぽ」  
村上 吉秋さん 岩手県奥州市

第42回「新・日本の農村」写真コンテスト 入選者(順不同、敬称略)

賞	氏名	都道府県	画題
最優秀賞	村上 吉秋	岩手県	いち・に・さんぽ
金賞	笠原 均	青森県	さあ、わげもん！みんなして力合わせべ！
銀賞	河野サエ子	山口県	九州北部豪雨の痕跡（6枚組み）
銀賞	金子 善憲	長崎県	村祭り
銅賞	達下 才子	岩手県	セリ収穫最盛期
銅賞	五十嵐敏紀	秋田県	早春の剪定作業
銅賞	庵原 政章	東京都	モグモグ タイム
銅賞	杉浦 正幸	愛媛県	夕暮れ
佳作	国岡 洋一	北海道	田園の子どもたち
佳作	出口 博司	北海道	ひとり二役
佳作	太田 誠二	新潟県	村の子
佳作	手島 岱月	新潟県	今年も稲虫送り
佳作	星 正太郎	新潟県	見ていてね
佳作	荻山 清和	岐阜県	魚釣り
佳作	松浦 嘉人	静岡県	山里の茶摘み
佳作	牧野 士郎	静岡県	朝の早い作業
佳作	大塚美代子	静岡県	農に生きて
佳作	川口 匡	愛知県	棚田の田植え
佳作	北川 隆司	岡山県	泥んこ遊びは最高！♪(^^(^^)(^^)(^^)v
佳作	木浦 正夫	岡山県	現在なお健在動きもの
佳作	野村ミツ子	山口県	元気いっぱい里山
佳作	山田 卓	徳島県	八幡さまの秋祭り
佳作	藤本 歩	香川県	冬に備える
佳作	中澤 福美	香川県	昼さがり
佳作	石川 賢一	高知県	里帰り（3枚組み）
佳作	森本 孝	長崎県	ここが好き
佳作	山口 八郎	長崎県	堤干し（3枚組み）
佳作	仲程梨枝子	沖縄県	収穫の季節

銀賞

「村祭り」  
金子 善憲さん 長崎県佐世保市



銅賞

「モグモグ タイム」  
庵原 政章さん 東京都世田谷区

銅賞

「早春の剪定作業」  
五十嵐 敏紀さん 秋田県横手市



現代の農業、農村での暮らし、明るく楽しい事象などをテーマに、農業共済新聞が主催する、第42回「新・日本の農村」写真コンテストの審査会(審査委員長・尾辻弥寿雄)日本写真家協会会員、日本リアリズム写真家集団(会員)がこのほど開かれ、各賞の受賞作品が決定した。応募総数333点(応募者数114人)の中から、最優秀賞(賞金10万円と盾)には村上吉秋さん(岩手県)の「いちに・さんぽ」が受賞した。金賞(賞金5万円と盾)は笠原均さん(青森県)の「さあ、わけもん! みんなして力合わせべ!」みんなして力合わせべ!」に決まった。このほか、銀賞2点(賞金3万円と盾)、銅賞4点(賞金1万円と盾)、佳作20点(記念品)も決定した。最優秀賞から銅賞までの各賞の受賞作品を掲載する。

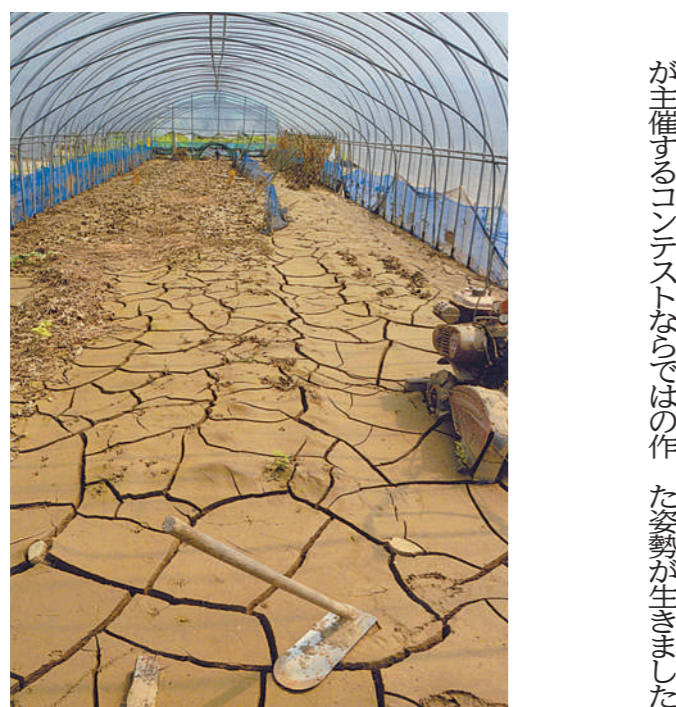


金賞

「さあ、わけもん! みんなして力合わせべ!」  
笠原 均さん 青森県平川市

銀賞

「九州北部豪雨の痕跡」(6枚組み)  
河野 サエ子さん 山口県下関市



銅賞

「夕暮れ」  
杉浦 正幸さん 愛媛県西条市



銅賞

「セリ収穫最盛期」  
達下 才子さん 岩手県奥州市



審査講評  
尾辻 弥寿雄  
日本写真家協会会員  
日本リアリズム写真家集団会員

総評

今年も期待にたがわず素晴らしい作品が多数応募されました。42年も継続する力と、ハイレベルな質を作り上げた全国の応募者に感謝です。今年の特徴は、子供を被写体にした作品に秀作が集まり、厳しい入賞争いとなりました。従来なら入賞しただろう作品が、佳作にも入らないという激しさでした。子供の秀作が多数応募された原因は、偶然ではありませんが、手軽に撮れる時代になり、カメラ目線のVサインに飽き、自然な姿の中にその魅力が宿ることに気づいたのです。母親の愛情の眼で、

個別評

最優秀賞「いちに・さんぽ」  
村上吉秋(岩手県)  
なんとこれもそのすがすがしさに目を引かれます。初夏の爽やかな光と麦秋の季節感、お母さんの笛の音と子供の掛け声、サイレントであるはずの写真に、気温を感じ掛け声が聞こえてきます。素晴らしい家族の写真です。数ある子供の秀作を押し出しただけの力ある作品です。

金賞「さあ、わけもん! みんなして力合わせべ!」  
笠原均(青森県)  
農機具がどどんと複雑化するなかで初めて扱う機種なのか、仲間と一つ一つ確かめながらの研修。まさに後継者たちの奮闘する姿です。それを温かく見守る作者の目線がタイトに表れています。NOSA I団体が主催するコンテストならではの作

銀賞「九州北部豪雨の痕跡」  
河野サエ子(山口県)  
福岡、大分県などに大被害をもたらした昨年7月の大豪雨。その爪あとを丹念に記録した行動力に敬服です。江戸時代から稼働する朝倉市の三連水車の被害模様、土砂に埋まった水田やハウスなど、災害一般でなくしっかりと農業関連に目を向けた姿勢が生まれました。

銅賞「夕暮れ」  
杉浦正幸(愛媛県)  
静かな夕暮れの水田の向こうに林立するオイルプラントの構群。なんともそわわらない取り合わせですが、これも日本の風景です。風光明媚な花鳥風月だけを風景写真と誤解する向きがありますが、目の前の光景が風景写真になります。

銅賞「早春の剪定作業」  
五十嵐敏紀(秋田県)  
一幅の水墨画のようで素晴らしい作品です。白く飛びがちな雪に微妙なグラデーションを付け、単調さを防ぐために若木に対して老木を配するなど、巧みな技術を駆使しています。さらに剪定する人物を入れることで、写真に命を吹き込みました。

銅賞「モクモクタイム」  
庵原政章(東京都)  
平昌オリンピックで有名になった言葉をいち早くタイトルに使い、休憩時間の楽しさを表現しました。手に持っているのはイチゴならぬ焼き芋か。焚火をする人物とシルエットの人物の対比もどこかを演出しています。